

「温暖化防止・ストリート」の由来

このストリート（街角）で温暖化防止について語り、情報や人の環が広がっていくことが、温暖化防止への道（ストリート）につながることを願っています。一緒に歩いてみませんか。

気候ネットワーク

～わたしたちはめざします～

1. 抜本的な国内対策で京都議定書の6%削減を！
2. 環境重視の社会経済システムを！
3. 市民・地域主導で温暖化防止の促進を！
4. 政策決定プロセスに市民の参加と情報公開を！
5. 南北の公平をめざし、南の人々と連携を！

目次

- ・用語解説「気温上昇2℃以下」……P.1
- ・団体紹介「神戸SS研究会」……P.2
- ・温暖化の影響・こんなことできる……P.3
- ・子どもエコライフチャレンジの紹介・本紹介・ボランティアの声……P.4

温暖化防止

ストリート

街角

道

KIKO ネットワーク

第15号
2005.9.1

気候ネットワークの会員同士のつながりを強め、その環を一層多くの人に広げたいと思い、この「温暖化防止・ストリート」を発行しています。

地球温暖化に関する用語解説

気温上昇2℃以下

昨年、ブエノスアイレスで開催されたCOP10では「2℃以下の気温上昇」という言葉が頻出しました。この2℃以下の経緯と意味について考えてみます。

EUは、1996年に「産業革命以前と比較して気温上昇2℃以下」と設定し、その目標を現在も維持しています。世界的なNGOのネットワーク組織のCAN（気候行動ネットワーク）がCOP8で出した「ポジションペーパー」では、「地球温暖化のピークを2℃未満の気温上昇に抑えるべきである」との提言を出しました。国内でも、中央環境審議会の専門委員会が「工業化前（1850年頃）と比べて気温上昇を2℃以下に抑制することは長期

目標の検討の出発点となりうる」との報告を出しました。科学者の間でも、気温上昇が2℃を超えると、地球規模での悪影響が大きくなると、指摘されています。

温暖化防止の長期目標を設定する際に「気温上昇2℃以下」が前提となっています。そのためには、大気中の温室効果ガスの濃度を約475ppm（0.0475%）以下で安定化させる必要があると言われています。工業化以前は280ppmであったのが、2000年では359ppmに上昇していることから、地球全体で大幅な排出削減をしなければ、475ppm、すなわち2℃以下に抑えることはできないということがわかります。

紹介者

神戸で活動している『サステイナブル・ディベロップメント & サステイナブル・ソサエティ研究会（神戸SS研究会）』の紹介です。幹事の加悦さんから紹介していただきました。



加悦 秀樹さん

神戸SS研究会とは

神戸SS研究会のSSは「サステイナブル・ソサエティ」の略です。1983年に国連の「環境と開発に関する世界委員会」から「Our Common Future」という報告が国連総会に提出され、その報告の中で使われた「サステイナブル・ディベロップメント」という言葉が広く一般に知られるようになりました。この「サステイナブル・ディベロップメント」は現在では「持続可能な発展」もしくは「持続可能な開発」と訳されて定着しておりますが、発表された当初は概念自体が常態化していなかった上に「維持可能な開発」とか「持続可能な開発」といったまるで無制限に開発を行うかのような逆の意味にも取れるような誤訳もあり、かなり混乱して使用されておりました。

「Our Common Future」が発表された当時、元大阪大学教授の林智さん、兵庫県・明石の弁護士、故西村忠之さん、大阪から公害をなくす会会長の芹沢芳郎さん、神戸大学名誉教授西川栄一さんらによって兵庫県芦屋市で同報告の勉強会が始められました。これが神戸SS研究会の始まりです。以後、「サステイナブル・ディベロップメント」について議論を重ねるようになり、合宿勉強会などを開催したりしているうちに、この概念を研究する団体として定着しました。



1994年に開催した
第1回SS全国研究交流集会

気候ネットワークの団体会員の紹介です。

現在ではワールドウォッチ研究所の「地球白書」をテキストとして、神戸で定期的に勉強会を開催しています。この勉強会は学者や研究者だけではなく、学生や一般の住民の方々も共に参加して発表し、議論しています。また、情報交換だけでなく運動として広げることを目的に1994年と2004年には全国的な研究交流集会を開催しています。

気候ネットワークと神戸SS研究会

気候ネットワークの前身である気候フォーラムが設立して間もなく、気候変動問題は数ある地球環境問題の中でも特に重大な問題であり、当時運営委員であった林智さんの勧めもあって神戸SS研究会は団体として加盟しました。これまでCOP3、4、6にオブザーバーを派遣する他、気候ネットワークと共催で神戸で1997年と2001年に合同シンポジウムを開催するなど共に活動しています。

これからも多くの方々と運動を盛り上げ、住民主体の豊かで平等で安全な社会、すなわちSSの実現に向けて歩みたいと願っています。



2001年に気候ネットワークと共催で開催した
「環境の世紀へ、変えよう！キャンペーン」
気候変動問題学習会

今回の団体は

サステイナブル・ディベロップメント & サステイナブル・ソサエティ研究会

サステイナブル・ディベロップメント & サステイナブル・ソサエティ研究会（神戸SS研究会）

〒673-0846 明石市上の丸1丁目14-37 西村真実方

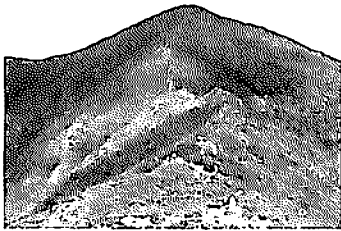
TEL : 078-912-6114

世界各地の温暖化の影響

世界・日本各地で見られる、温暖化の兆候や影響に関する情報を掲載していきます。

「北海道アポイ岳における（地球温暖化に伴う）高山生態系の変化」 —ヒダカソウを中心とする高山植物の減少・消滅—

佐藤嶺太
(気候ネットワークボランティア)



馬の背お花畑からのアポイ岳

地球温暖化は、すでに日本の山岳生態系にも影響を及ぼし始めています。そのひとつとして、北海道の日高山脈の南端に位置するアポイ岳周辺では、ハイマツやキダゴヨウの生育高度が上昇することによって、早ければ30年後には高山性草原が消滅し、固有種（アポイ岳周辺にしか存在しない）であるヒダカソウも絶滅してしまうと予測されています。

アポイ岳は、その標高が810.6mであるにもかかわらず、下層部の針広混交林からはじまって、上層部には高山草原が広がっています。それはこの山が、太平洋からの海霧の影響（暖流と寒流がぶつかるため）を受けて夏季でも気温が上がらないということに加え、世界的にも稀なカンラン岩という、超塩基性の岩石で構成されていることに起因しています。このような特色からアポイ岳周辺には、ヒダカソウ、エゾコウゾリナ、アポイカンバをはじめとして、80種を超える数多くの植物が生育しています。地球温暖化の

影響は、このような高山植物やそれを取りまく生態系を脅かしつつあるのです。

国立環境研究所と共同でヒダカソウの個体調査を行っている「アポイ岳ファンクラブ」の方にお話を聞いたところ、「約50年前には5合目付近の地点でも、お花畑が存在していた」とのことでした。私が実際に登ってその現地を訪ねてみたところ、お花畑だったと思われる地点は背丈以上のゴヨウマツに覆われていて、一部稜線沿いに高山植物が確認できる程度でした。また、山頂付近のお花畑では、2003年に気象計が設置され、今後さらに詳しい研究が進められる模様です。

アポイ岳における生態系の変化は、地球温暖化がさらに進行すれば、標高の高い山岳地域においても同様の生態系変化が続発することを示唆しているといえるでしょう。



エゾコウゾリナ

温暖化防止
こんなことできる！



このコーナーでは、「家庭・個人」・「地域・グループ」でできる効果的な温暖化対策を紹介していきます。

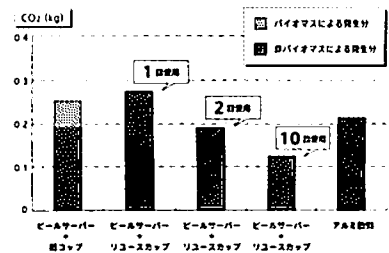
"お祭り"で温暖化対策 ～リユース食器を使ってみよう！～

イベントやお祭りは楽しいですね。でも、後には多量のごみが出ます。リユース食器を利用して容器ごみを減らし、「お祭り」で温暖化対策してみませんか？

一般には使い捨て容器を使用するより、リユース食器を使用する回数が増えるほど環境負荷が減り、地球温暖化の防止につながります（右図参照）。京のアジェンダ21フォーラムではえこまつりWGでこのような活動のサポートを行っています。

全国各地でリユースの推進を進めている団体からなる「リユース食器ネットワーク」(<http://www.reuse-network.jp/>)

お祭り会場でビール500mlを提供する場合の環境負荷
京のアジェンダ21フォーラムえこまつりワーキンググループ調べ



では、リユース食器を貸し出している団体を紹介しています。京都では、200個・枚までなら無料で食器を借りることができますよ。詳しくは下記問合せ先まで。

◆問合せ先：地域環境デザイン研究所 ecotone

TEL/FAX：075-352-1321 担当：石原

京のアジェンダ21フォーラム事務局コーディネーター 竹村光世

Action

このコーナーでは、気候ネットワークのプロジェクトや研究会、キャンペーンなどの紹介をしています。

気候ネットワークの活動紹介



子どもエコライフチャレンジの
説明を聞く小学生

「子どもエコライフチャレンジin常磐野小学校」

気候ネットワークでは京都市と連携して環境家計簿「京都市エコライフチャレンジ」の普及に取り組んでいます。今年度はこの環境家計簿を子ども向けにアレンジし、より多くの家庭で実施してもらえるように学校と連携した新しい形のプログラム「子どもエコライフチャレンジ」を試行しています。

子どもエコライフチャレンジは、まず事前学習をおこない、夏休み期間を利用して家庭の省エネ活動を実践し、後に取り組み結果を発表するという流れになっています。常磐野小学校（京都市右京区）では、5年生約130名を対

象に温暖化や省エネルギーについて学び考えるワークショップを行いました。

今回は、（社）京都青年会議所、ひのでやエコライフ研究所、京エコロジセンター、京都市と気候ネットワークの協働によるもので、青年会議所メンバーが参加するなどこれまで以上に地域に密着したより効果的な取り組みになっています。

学校での温暖化防止教育を進めていくためには、こうした体制作りも重要な要素であり、この取り組みをきっかけに他の学校にも広げて行きたいと考えています。

Book

本の紹介

おすすめの本の紹介です。

高野留衣（気候ネットワークインターンシップ生）

デンマークのユーザー・デモクラシー 福祉・環境・まちづくりからみる地方分権社会

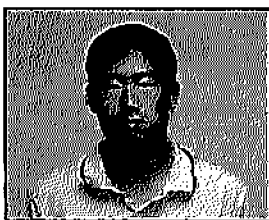


デンマークで発祥した市民参加型の概念である「ユーザーデモクラシー」は、日本語では「利用者民主主義」と訳されます。この本ではこの概念をキーワードに、異なる分野の若手研究者5人がデンマークの地方財政、高齢者福祉、環境・エネルギー政策など多岐にわたるテーマを通して、地方分権型協働社会を前提とする市民参加の具体像を明らかにしています。個人中心社会でありながらも緩やかな連帯感が感じられるデンマーク社会と日本のライフスタイルや価値観の違いをはっきり感じられる一冊です。

B5版、332ページ、3,000円(税別)
発行：新評論
著：朝野賢司、生田京子他
発行年月日：2005/03/18

Volunteer

ボランティアの声



気候ネットワークでは
たくさんのボランティアが
一緒に活動しています。
そのボランティアからのコメント！

京都ボランティア 佐藤嶺太さん

立命館大学大学院社会学研究科1回生の佐藤です。現在私は、「地域温暖化防止研究会」のコーディネーターを務めさせていただいている他、「進行する日本温暖化影響・調査プロジェクト」などの活動に関わっています。また、大学院では、「地域社会における環境と福祉分野の統合的発展」というテーマで研究しています。みんなが助け合いながら温暖化防止に取り組めるような社会になればいいな、と思いながらボランティア活動に参加しています。

編集後記

気候ネットワークのホームページアドレス、メールアドレスが変更になりました。

ご使用の際には、ご注意ください。

気候ネットワーク編集の新しい本『地球温暖化防止の市民戦略』が発行しました。これにあわせて「入会キャンペーン」も行なっています。本の割引もありますので、この際にぜひご入会、そして入会の呼びかけにご協力ください。

(おかげ)



特定非営利活動法人 気候ネットワーク

代表：浅岡美恵 / 副代表：須田春海 / 事務局長：田浦健朗

URL : <http://www.kikonet.org/>

「温暖化防止・ストリート」15号
2005年9月1日発行（隔月1日発行）
編集・DTP：岡優子・豊田陽介

京都事務所（本部）
〒604-8124 京都市中京区高倉通四条上る高倉ビル305
TEL : 075-254-1011 FAX : 075-254-1012
E-mail : kyoto@kikonet.org

東京事務所
〒102-0083 東京都千代田区麹町2-7-3半蔵門ウッドフィールド2F
TEL : 03-3263-9210 FAX : 03-3263-9463
E-mail : tokyo@kikonet.org

古紙100%の再生紙に大豆インクを使用し、風力発電による自然エネルギーで印刷しました。



郵便振替口座：00940-6-79694（加入者名：気候ネットワーク）
銀行振込口座：東京三菱銀行 京都支店 普通口座 1370852（気候ネットワーク）